令和３年度

園だより　5月号

杉並区立下高井戸子供園

教育目標　○自分で考えて行動する子　◎自分も人も大切にする子　○心身ともに健やかな子

親子の会話をたっぷりと！！

副園長　　原　麻弓

先日、子供園に済美教育センターから特別支援教育アドバイザーの森山徹先生をお招きし、特別支援教育を通した学級経営の在り方について、職員の研修を行いました。

「３歳や４歳の幼児が、学級のみんなで集まって座って先生の話を聞くことができるのは、なぜ？」こんな投げ掛けから研修が始まりました。

一般的に４～５歳頃になると、自分が聞いた言葉から物事をイメージして、それに対して期待感をもつことができるようになります。具体的に言えば、「先生が絵本を読みますよ。」という先生の話を聞くと“先生が絵本を読んでくれるんだ！”と、その場面をイメージし、“今日はどんなお話かな？”と楽しみにする気持ちがもてるようになり、集まって話を聞こうとする態度につながる、ということです。先生の発する“言葉を理解する”こと、それを“イメージする”こと、そのイメージに“自分の体や意識を向ける”ことができるようになると、子供園での遊びや活動がさらに楽しめるようになります。『言葉』を通した人との関わりが、幼児期には特に大切です。

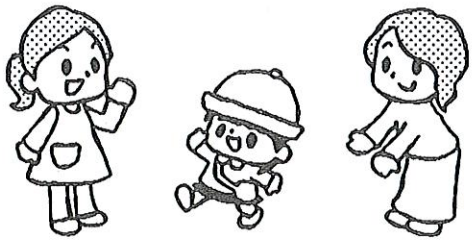
日頃の何気ない大人との会話から、子どもたちはたくさんの情報と言葉そのものを知っていきます。一方的に溢れ出てくる動画の音声ではなく、身近な、大好きな人からの自分に向けられた言葉を子どもたちにはたくさん掛けてあげたいですね。

お話の最後に、森山先生からこのような質問がありました。

「リンゴが全部で８個あります。太郎君が３個もらいました。花子さんが２個もらいました。あなたはリンゴを何個食べられますか？」

「３個・・・」算数の問題の答えならば、「３個」が正解ですね。でも、「おなかがいっぱいになっちゃうから、私は、“１個”でいいや。」このような答えだって、正解！

幼児期の子どもを育てていくためには、正解を一つに決めない、一人一人の思いに寄り添う大人の、幅の広い考え方が必要なのですね。



子供園でも、一人一人が自分の思いを伸び伸びと表現し、それを十分に受け止めていく教育・保育に努めていきます。

困っていることや分からないことなど、いつでも、どこでも、職員にお声掛けください。子どもたちのことを一緒に考えていきたいです！